



「大径つばさ杭」



## 「大径つばさ杭」

領域は、支持層から下の地盤をモデル化し、上部地盤は上  
載荷重により考慮した (Fig.6)。杭は弾性体とし、地盤の  
構成方程式は、Duncan



Photo 1 Construction method

Fig.8～Fig.10に施工記録を示す。トルク  $T$  (kN・m) は油圧ユニットからの油圧を測定することにより、換算して求めた。貫入量  $S$  (cm) は1回転ごとの杭施工深度を計測し、その増分を1回転当たりの貫入量として求めた。硬さ指標  $K$  (kN・m/cm) は、式(3)に示すトルク  $T$  を1回転当たりの貫入量  $S$  で除した値であり、その変化により支持層到達の判断指標とした。

$$K=T/S \quad \dots\dots(3)$$

これらの指標は、パソコンを用いた施工管理計で記録され、常に施工状況を把握することができる。

施工性調査試験の結果、以下のことが明らかとなった。

- (1) 従来までの杭頭回転方式で施工した際の施工記録と同様に、 $N$  値の分布に対応した硬さ指標の記録が得られた。よって、これまでの「つばさ杭」の施工管理手法をそのまま適用することができる。
- (2) 支持層付近で硬さ指標  $K$  が明確な変化を示し、支持層

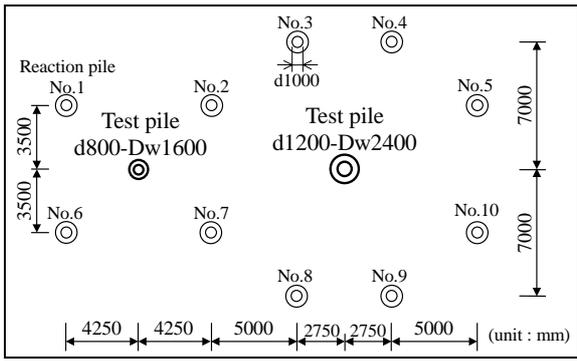


Fig.11 大径つばさ杭の試験配置図

「大径つばさ杭」

